

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立津谷小学校（※正式名称を記載）
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫 _____）
所在地 〒988-0308

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

E-mail tsuya-sho@kesennuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 134 名 女子 111 名 合計 245 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の ESD のテーマ

～地域を見つめ、地域で学び、ふるさとの未来を拓く子どもの育成～

本校の ESD でめざすもの

1 ESD のねらい

- ① 「ふるさと津谷」の「人・もの・こと」との関わり合いを通して、ふるさとを愛し、地域の復興を願うとともに、自己の生き方を考えることができる。
- ② 「地域学習」に取り組む他校と情報を交換し合い、共通点や差異点について考えることで、相互に「学び」を深め合う。

2 ESD で育てたい資質・能力

- ① 探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、解決する能力や課題に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育てる。（問題を解決していく力・学び方や考え方を学ぶ力）
- ② 体験的な学習を通して、思いやりの心や自立心を育み、自己の生き方を考えることができるようにする。（自分の生き方を考える力）

3 本校 ESD の特長

- ① 幼・保・小の連携活動として、学年ごとに津谷幼稚園、津谷保育所との交流活動を実践していること。
- ② 地域の産業や自然（津谷川）等の地域素材を教材化し、学習活動に地域人材を活用しながら地域学習を実践していること。

「平成29年度の実践活動」

① 「幼・保・小の連携活動」

(1年生) 稚園児や保育所児童と一緒に教材園にさつまいもの苗を植えた。活動には「じいちゃん、ばあちゃんレンジャー」も参加した。春に植えたサツマイモは、草取りをして立派に育て上げ、サツマイモ汁として食べた。

(2年生) 学校の近くの公園で幼稚園児と一緒に遊んだ。事前に遊びの計画を立てて年下の子供を上手に遊ばせることができた。これらの活動を通して年少者への思いやりの心を育むことができた。

② 「地域学習」

(3年生) 津谷地区と馬籠地区の町と人について調べる活動を通して、地域への関心を高めることができた。特に名人を招いての手巻き寿司体験学習は、自主的な制作活動への意欲向上につながった。

(4年生) 津谷川の水生生物を捕獲し、指標下敷きを参考にして水質検査を調査した。11月には、津谷川に溯上したサケの採卵を行い、3月には稚魚の放流を行うことで地域の自然や環境に興味を持つことができた。

(5年生) 地元の味噌店の方から味噌作りの指導をいただいた。大豆から栽培し、その大豆を使用し、麴と混ぜて発酵させた。6年生の冬まで数回指導をいただきながら最後の町弁作りに生かすことにした。

(6年生) 地域の方の協力で田植えと稲刈りを体験した。収穫した米でお弁当を作った。5年生から仕込んでいた味噌も利用して町弁作りを行った。稲作や味噌作りを通して町の産業やそれに携わる人が多くいることや地域の一員としての自覚を高めることができた。



1年生サツマイモパーティー(幼保)



2年生幼稚園と遊ぼう(幼保)



3年生 手巻き寿司体験(地域)



4年生津谷川水質検査(地域)



5年生味噌作り体験学習(地域)



6年生町弁作り(地域)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・東京書籍 (生活科 1, 2 年生)・会津若松市パンフレット (6 年生)
- ・図書室の図鑑, 押し花の本 (3 年生)・気仙沼大川のサケ・マス (4 年生)
- ・インターネット (味噌づくり 5 年生)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300 字程度)

当校は、「地域とともにある学校運営～保護者・地域から信頼される学校づくり」をめざしコミュニティ・スクールとして学校と地域の連携・協働を図っている。

【志教育と ESD を基盤として教育活動の展開】

<具現のための視点>

- ① 人とかがわり、よりよい生き方を求め、地域での役割を果たすことを目指す『志教育の充実』
- ② 国際的な視野に立ち、ふるさとの未来を考えて行動できる児童を育むための教育内容や手法の展開、発展を目指す『ユネスコスクール』の推進
- ③ 持続可能な社会の担い手として求められる『学力』『気力』『体力』の向上

<具現化のための手立て>

- ① 身近な環境を見つめ、自然環境を大切にする心情を育てる「環境教育」の充実
- ② 地域の食文化を通して、地域文化と生活の関わりを考えさせる「地域文化理解」の充実
- ③ 各種校外活動や様々な人々との交流を通して、視野を広げる「校外・交流活動」の充実

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

・幼稚園、保育所、小学校の交流活動を充実させるために、事前には、活動内容、準備物、指導の流れなどを話し合っている。年度末には、年間の活動反省を行い、来年度の計画に反映させている。また、1年生から6年生まで全学年が交流しているが、年間行事予定に位置づけて計画的に実施している。低学年の活動時には、地域の方にご協力いただくために学年便り等で知らせ、参加を募っている。

・教材園の整地は、祖父母の協力と地元の JA の方の指導により行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

・学習活動中に記録したものや感想、自己評価したもの等を累積し、児童の変容をしっかりとらえていく。評価方法については各学年で話し合い、共通理解していく。

・(課題)児童は自己評価を行っているが、具体的な評価の観点が不十分なため個人によって評価が違っていた。また、学校全体としての評価方法の話し合いや見直しの機会が少ないため、各学年で行っている。ESD で育てたい資質・能力を指導者がしっかり把握し、評価基準を踏まえた上で誰がどの学年になっても同様な評価に努めなければならない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・馬籠小学校と津谷小学校が統合して1年目にあたる今年度は、学区拡大したことで校外学習も範囲を広げた。1年生は「秋を探しに行こう」の単元で馬籠小学校地域の探検へ出かけた。2年生は「町探検」の単元で津谷地区と馬籠地区の両方を探検した。馬籠地区の方に協力を経て、説明をしていただいたり、初めて馬籠幼稚園へ訪問したりした。その様子は地域の新聞に掲載していただいた。また訪問には気仙沼市のバスを利用するなど公共機関にもご協力いただいた。今回の活動を機として、来年度から他学年も環境教育や幼稚園訪問などを予定している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・実施せず

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・近隣の幼稚園と保育所と交流活動を行っている。幼児教育から小学校への円滑な接続を図るためである。また幼稚園の活動時には、地域の人々の協力を得ることで「社会的な学び」を豊かにしている。小学校では、各学年の発達段階に応じて交流活動を計画して、段階的な内容になっている。1年数回、幼稚園と保育所と活動について話し合いを行い、充実した交流活動を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

- ・幼稚園と保育所との交流を行うことで、小学校入学後の学校生活がスムーズに送ることができた。
- ・幼稚園、保育所と交流では、活動時には地域の方（祖父母・JA職員）にご協力いただき活動を行っている。地域の学校として活動内容も理解していただいている。馬籠地区の方々にも、積極的に活動に関わっていただいた。
- ・馬籠小学校と統合したことで学習の場が広がり、内容も多様化し、両校の特長を生かした活動を展開することができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 【1年生】◆なかよし学年顔あわせをしよう
 - ・なかよし遊び
 - ◆サツマイモをそだてよう
 - ・植栽 収穫 収穫祭
 - ◆ようこそがっこうへ ※秋をさがそう
 - ・年長児による授業参観 給食試食会
 - ◆入学体験をしよう
- 【2年生】◇わくわく町たんけんをしよう ※馬籠地区探検
 - ◆公園で遊ぼう
- 【3年生】◆ひまわり活動をしよう
 - ・種まき 収穫（種取り）
 - ◇本吉のすてきな人を発見しよう
 - ・押し花づくり名人 巻きずし名人
- 【4年生】◇本吉の町の自然を知ろう
 - ・津谷川の水質調査 ※馬籠川の水質調査
 - ◆なかよし祭りに招待しよう
 - ・招待状づくり 出店の紹介
- 【5年生】◆いっしょに遊ぼう
 - ・幼稚園、保育所訪問
 - ◇大豆の秘密を調べよう
 - ・種まき 収穫 仕込み
- 【6年生】◆いっしょに遊ぼう
 - ・運動会のエスコート
 - ◇本吉プランを提案しよう
 - ・味噌切り返し お弁当作り
 - ・田植え 稲刈り

- 注) ◆幼稚園・保育所交流活動
 ◇地域体験学習
 ※馬籠小学校との統合後の学習